

メンタル・スペース理論と過去・完了形式：日本語 と韓国語の対照

曹, 美庚

広島修道大学人間環境学部：助教授：日韓対照言語学、異文化コミュニケーション論

<https://hdl.handle.net/2324/6055>

出版情報：2003-06-30. 広島修道大学総合研究所
バージョン：
権利関係：

参 考 文 献

- Akatsuka, Noriko (1983) "Conditionals" *Papers in Japanese Linguistics* Vol. 9, Kurosio Syuppan
- Akatsuka, Noriko (1985) "Conditionals and the epistemic scale" *Language* 61
- 有田節子 (1993) 「日本語条件文研究の変遷」『日本語の条件表』くろしお出版
- 有田節子 (1993) 「日本語の条件文と知識」『日本語の条件表現』くろしお出版
- 池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
- 伊藤英人 (1990) 「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について (1)—hya-ss-ta 形について—」『朝鮮学報』137号
- Inoue, Kazuko (1979) "On conditional connectives" 『日本語の基本構造に関する理論的実証的研究』文部省科学研究費特定研究報告
- 井上 優・生越直樹 (1997) 「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1号
- 奥田靖雄 (1978) 「アスペクト研究をめぐる (上, 下)」『教育国語』53, 54号
- 奥田靖雄 (1988) 「文の意味的タイプ」『教育国語』92号
- 生越直樹 (1993) 「朝鮮語における過去の出来事を表す表現」『日本語とアジア諸言語との対照的研究—テンスとアスペクト—』科研費報告書
- 生越直樹 (1995) 「朝鮮語hyassta形, hya issta形 (hako issta形) と日本語シタ形, シテイル形」『研究報告集』16号, 国立国語研究所
- 生越直樹 (1995) 「朝鮮語と日本語の過去形と進行形」国立国語研究所 公開発表会 レジュメ
- 尾上圭介 (1982) 「現代語のテンスとアスペクト」『日本語学』第1巻2号
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論—言語と認知の接点—』くろしお出版
- 片桐恭弘 (1988) 「談話の世界」『自然言語理解』オーム社
- 片桐恭弘 (1992) 「状況意味論と談話理解」『人工知能学会誌』vol. 7, No. 3
- 神尾昭雄 (1985) 「談話における視点」『日本語学』Vol. 4, No. 12
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』大修館書店
- 河上誓作編著 (1996) 『認知言語学の基礎』研究社出版
- Kim seng hwa (1989) 「現代国語の相研究」慶北大学博士論文
- 金水敏 (1988) 「日本語における心的空間と名詞句の指示について」, 特定研究報告, 『談話・意味・語用論』
- 金水敏 (1989) 「「報告」についての覚書」『日本語のモダリティ』くろしお出版

参考文献

- 金水敏 (1990) 「メンタルスペース理論を中心に」 K. L. S. Vol. 10
- 金水敏 (1990) 「述語の意味層と叙述の立場」『女子大文学』国文編, 第41号
- 金水敏 (1990) 「指示詞と談話の構造」『言語』Vol. 19, No. 4
- 金水敏 (1991) 「伝達の発話行為と日本語の文末形式」『紀要』18号, 神戸大学
- 金水敏 (1992) 「談話管理理論から見た「だろう」」『紀要』19号, 神戸大学
- 金水敏 (1993) 「古事記のテンス・アスペクト」『国文学解釈と鑑賞』58巻7号
- 金水敏 (1994) 「連体修飾節の『ータ』について」『日本語の名詞修飾表現』くろしお出版
- 金水敏 (1997) 「いわゆる ‘ムードの『タ』’ について—状態性との関連から—」東京大学国語研究室創設百年記念 国語研究論集』汲古書院
- 金水・田窪 (1990) 「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『認知科学の発展3』認知科学会
- 金田一春彦 (1953) 「不変化助動詞の本質—主観的表現と客観的表現の別について (上・下)—」『国語国文』第22巻2・3号
- 金田一春彦 (1957) 「時・態・相・および文法」『日本文法講座』1
- 金田一春彦 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 工藤真由美 (1987) 「現代日本語のアスペクトについて」『教育国語』91号
- 工藤真由美 (1989) 「現代日本語のパーフェクトをめぐる」『ことばの科学3』むぎ書房
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテクスト—現代日本語の時間表現—』ひつじ書房
- 国広哲弥編 (1982) 『日英比較講座第4巻: 発想と表現』大修館書店
- 言語学研究会・構文論グループ (1985a) 「条件づけを表現するつきそい・あわせ文 (1)」『教育国語』81号
- 言語学研究会・構文論グループ (1985b) 「条件づけを表現するつきそい・あわせ文 (3)—その3 条件的なつきそい・あわせ文—」『教育国語』83号
- Ko, yeng kun (1986) 「国語の時制と動作相」『国語生活』6号, 国語研究所出版
- B. コムリー著, 山田小枝訳 (1988) 『アスペクト』むぎ書房
- Comrie, Bernard (1976) *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 小矢野哲夫 (1982) 「国語学におけるテンス・アスペクト観の変遷」『日本語学』第1巻2集
- 坂原茂 (1985) 『日常言語の推論』東京大学出版会, 認知科学選書2
- 坂原茂 (1989) 「メンタル・スペース理論概説」『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 坂原茂 (1990) 「談話研究の現在と将来」『月刊言語』Vol. 19, No. 4

参考文献

- 坂原茂 (1991) 「現代言語学の旗手たち (6) G. フォコニエ」『月刊言語』6月
- 坂原茂 (1993) 「条件文の語用論」『日本語の条件表現』くろしお出版
- 定延利之 (1993) 「事態認知モデル構成要素としての状態の必要性」第10回日本認知科学会発表論文集
- 白井賢一郎 (1991) 『自然言語の意味論』産業図書
- 曹 美庚 (1995) 「日本語の「タ」と韓国語の「ess」の対照研究—心理的完了における語用論的側面を中心に—」神戸大学大学院修士論文
- 曹 美庚 (1996) 「未来事態に用いられる完了形の語用論的側面について」平成8年度国語学会秋季大会予稿集
- 曹 美庚 (1997) 「想定空間の同一化と完了形発話」『研究ノート』Vol. 32, 神戸大学
- 曹 美庚 (1997) 「未実現事態の心的パーフェクト」『Kansai Linguistic Society』Vol. 17
- 曹 美庚 (1998) 「事態選択形式に関する一考察—「ルほうがいい」と「タほうがいい」—」『国文論叢』第26号, 神戸大学文学部 国語国文学会
- 曹 美庚 (1998) 「日本語と韓国語の過去・完了形式の対照語用論的研究—メンタル・スペース理論に基づく—」神戸大学大学院 博士後期課程 単位修得論文
- 曹 美庚 (2002) “TA/EOSS Form used for Unrealized Future Events”『京都学園大学経営学部論集』第12巻第1号, 京都学園大学経営学会
- 曹 美庚 (2003) 「「タ」のメンタル・スペース理論的解釈」『人間環境学研究』第1巻第1・2号合併号, 広島修道大学人間環境学会
- 白川博之 (1995) 「タラ形・バ形で言います文」『広島大学日本語教育学科紀要』5, 広島大学
- 서 정수 (1982) 「韓・日 두 나라말의 時相」『한글』Vol. 177
- 鈴木義和 (1993) 「条件表現各論—バ／ト／タラ／ナラー—」『日本語学』13-8
- 鈴木重幸 (1965) 「現代日本語の動詞のテンス」『ことばの研究』第2集
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 鈴木重幸 (1976) 「日本語の動詞のとき (テンス) とすがた (アスペクト)—シタと～シテイター—」金田一 [1976] に収録
- 鈴木英夫 (1970) 「過去と完了—「-た」と「-てしまう」を中心として—」『文法』第3巻第2号
- Sung-Ock S. Sohn (1995) *Tense and Aspect in Korean* Center for Korean Study of tense in Korean. Seoul: Tower Press
- Sohn, Ho-min (1974) Modals and speaker-hearer perspectives. *Paper in Linguis-*

tics 7

- Sohn, Ho-min (1975) "Retrospection in Korean" *Language Research* 1.1
- Sohn, Ho-min (1986) *Linguistic expeditions*. Seoul: Hanshin
- Song, Seok Choong (1976) "On an abbreviation phenomenon" *Journal of Korean Linguistics* 3
- Song, Seok Choong (1983) "Korean connection:A reanalysis of 'transferentive'" *Korean Linguistics* 1.2
- 高木一広 (1993) 「認識と発話の過程を考慮した意味記述の試み—日本語の文末表現「た」を例に一」 神戸外国語大学大学院修士論文
- 高梨信乃 (1995) 「スルトイとスレバイイとシタライイ」『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版
- 高梨信乃 (1995) 「シテモイイとシテイイ」『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版
- 高梨信乃 (1995) 「スルトイとスレバイイとシタライイ—条件接続形式による評価的複合表現1—」『日本語類義表現の文法(上)—単文編—』くろしお出版
- 高橋太郎 (1985) 『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』国立国語研究所秀英出版
- 田窪行則 (1989) 「文脈理解—文脈のための言語理論」『情報処理』情報処理学会, Vol. 30, No. 10
- 田窪行則 (1990) 「対話における聞き手領域の役割について」『認知科学の発展3』認知科学会
- 田窪行則 (1990) 「談話管理の理論—対話における聞き手領域の役割—」『言語』Vol. 19, No. 4
- 田窪行則 (1992) 「メンタルスペース理論」『言語』Vol 21, No 12
- 田窪行則 (1992) 「談話管理の標識について」『高度な日本語記述文法書作成のための基礎的研究』平成3年度科学研究費補助金総合研究A
- 田窪行則 (1993) 「談話管理理論から見た日本語の反事実条件文」『日本語の条件表現』くろしお出版
- Takubo, Yukinori and Kinsui, Satoshi (1991) "Discourse Management in Terms of Mental Domains" 『高度な日本語記述文法書作成のための基礎的研究』平成3年度科学研究費補助金総合研究A
- J. デインズモア著, 坂原茂訳 (1990) 「表現と言語理解理論としてのメンタルスペース理論」『認知科学の発展3』認知科学会
- 寺村秀夫 (1971) 「‘た’の意味と機能—アスペクト・テンス・ムードの構文的位置づけ」『岩倉具実教授退職記念論文集 言語学と日本語問題』くろしお出版

参考文献

- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集Ⅱ—日本語文法編—』 くろしお出版
- 中右実 (1994) 『認知意味論の原理』 大修館書店
- 남 기심 (1978) 국어문법의 시제문제에 관한 연구 [A study of tense in Korean].
Seoul: 탑 출판사.
- 南基心 (1989) 『国語文法の時制問題に関する研究』 国語学研究選書 6, 塔出版
- 仁田義雄 (1987) 「条件付けとその周辺」 日本語学 Vol. 6, No. 9
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房
- 仁田義雄・益岡隆志 (1989) 『日本語のモダリティ』 くろしお出版
- 仁田義雄・宮島達夫 (1995) 『日本語類義表現の文法 (上) (下)』 くろしお出版
- 蓮沼昭子 (1993) 「「たら」と「と」の事実的用法をめぐる」 『日本語の条件表現』
くろしお出版
- 浜之上幸 (1992) 「現代朝鮮語の「結果相」=状態パーフェクト—動作パーフェクトとの対比を中心に」 『朝鮮学報』 Vol. 142
- 浜之上幸 (1997) 「朝鮮語のアスペクト—日本語との対比の観点から—」 『先端的言語理論の構築とその多角的な実証 (1-B)—ヒトの言語を組み立て演算する能力を語彙の意味概念から探る—』 COE 形成基礎研究
- Fauconnier, Gilles (1985,1994) *Mental Spaces*. MIT Press, Cambridge.
- 坂原・水 光・田窪・三藤訳 (1996) 『メンタル・スペース』 白水社
- Fauconnier, Gilles (1990) *Domains and Connection*. 坂原訳 (1990) 「領域と結合」
『認知科学の発展』 vol. 3 講談社
- 前田直子 (1991) 「条件文分類の一考察」 『日本語学科年報』 13 東京外国語大学日本語学科
- 前田直子 (1995) 「バ, ト, ナラ, タラー—仮定条件を表す形式—」 『日本語類義表現の文法 (下)—複文・連文編—』 くろしお出版
- 益岡隆志編 (1992) 『モダリティの文法』 くろしお出版
- 益岡隆志編 (1993) 『日本語の条件表現』 くろしお出版
- 益岡隆志 (1993) 「日本語の条件表現について」 『日本語の条件表現』 くろしお出版
- 益岡隆志 (1993) 「条件表現と文の概念レベル」 『日本語の条件表現』 くろしお出版
- 益岡隆志編 (1993) 『日本語の条件表現』 くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』 くろしお出版
- 松下大三郎 (1930) 『標準日本口語法』 中文館書店. 復刊 (増補校訂) 勉誠社 (1977)
- 三上章 (1953) 『現代語法序説』 刀江書院. 復刊くろしお出版 (1972)
- 三上章 (1959) 『新訂版・現代語法序説』 刀江書院. 復刊『続・現代語法序説』 くろ

参考文献

- しお出版 (1972)
- 三原健一 (1992) 『時制解釈と統語現象』 くろしお出版
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語 1, 2, 3』 角川書店
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 角川書店
- 森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型—用例中心・複合辞の意味と用法』 アルク
- 森田良行 (1994) 『動詞の意味論的文法研究』 明治書院
- 森山卓郎 (1992) 「価値判断のムード形式と人称」 『日本語教育』 Vol. 77
- 森山卓郎 (1997) 「日本語における事態選択形式—「義務」「必要」「許可」などのムード形式の意味構造—」 『国語学』 188集, 国語学会
- 森山卓郎・安達太郎 (1996) 『セルフ・マスターシリーズ 6 一文の述べ方—』 くろしお出版
- Lee, Chungmin (1982) “Aspects of aspect in Korean” *Linguistic Journal of Korea* 7.2
- 山田孝雄 (1908) 『日本文法論』 宝文館
- 湯澤幸吉郎 (1954) 『江戸言葉の研究』 明治書院
- 湯澤幸吉郎 (1970) 『徳川時代言語の研究』 風間書房
- 渡辺実 (1991) 「‘わがこと・ひとごと’ の観点と文法論」 『国語学』 165集

<付 録>

「ルほうがいい」と「タほうがいい」の実例

(●：タほうがいい, □：ルほうがいい, △：しないほうがいい)

<雑誌名はアルファベット順>

【1】CanCan, 小学館, 1998 No. 201.

- 1) 旅行に行くより, 静かな公園や美術館でデートしたほうがよさそうです。
- 2) クールに対応して少し様子を見たほうがよさそう。
- △3) あなたが正しいと思ったことも今は, できれば口にしないほうがよいでしょう。
- 4) なるべくその場で謝るようにしたほうがよさそうです。
- 5) 人のたくさんいるにぎやかな場所よりは, 静かな土地を選ぶほうがよいでしょう。
- 6) 彼のリードに任せたほうが好結果につながります。
- 7) クールに対応するほうがよいでしょう。
- 8) マイペースで静かに過ごしたほうがよいにもかかわらず, 人前で注目されることがおおくなるというアンバランスな運氣です。
- 9) 浮かれた気分にならずにじっくりと腰を落ち着けて過ごしたほうがよいでしょう。
- 10) あなたのほうから夢中になるような状況は避けたほうが賢明でしょう。
- 11) 浪費しやすいときですが, ケチらずに気前よくしたほうが運氣アップにつながります。
- 12) 全身一色でまとめるよりも, ポイントとして着こなしてみたほうが運氣がアップしそう。

□13) 人のたくさんいる場所で過ごすほうがラッキーです。

【2】CanCan, 小学館, 1998 No. 202.

- 14) 早期に決断をして離れたほうが賢明です。
- 15) 素直に甘えてみたほうがよいでしょう。
- 16) ケンカした場合は、早めに謝っておいたほうが良さそうです。
- 17) 進展は勇気次第ですが、引き際のフォローも考えておいたほうが無難です。
- 18) やる気はあっても人のサポートにまわったほうが力を発揮できるときです。
- 19) 誘ってみても彼にいく気がなさそうだったら、見合わせたほうが無難。
- 20) 与えられた業務をしっかりこなすことに集中するほうが運氣上昇につながります。
- 21) 不本意な事を言われても、今は従っておくほうが賢明です。
- 22) 実力を発揮できるチャンスと考えて積極的に引き受けてみたほうが、今後のためになりそうです。

【3】JJ, 1998 July.

- 23) それでも相手の態度が変わらないようだったら、ピリオドを打つほうがいいかもしれません。
- 24) 年下の男性からの誘いにはのったほうが○。
- △25) あまり深刻に考えないほうが良さそうです。
- △26) 家族とのケンカは、長引かせないほうが無難です。
- △27) 先輩や上司には、逆らわないほうが賢明です。
- 28) どうでもいいことと思えるときは相手を立てるほうがいいでしょう。
- 29) 他の人に代わってもらったほうがうまくいきます。

<付録>

- 30) 自分の気持ちにストレートな行動をとるほうが、いいかもしれません。
- 31) 追いかける恋はパスしたほうが無難です。
- 32) そろそろピリオドを打つほうがいいかも。
- 33) 周囲とのバランスを考えた言動をとるほうが賢明です。
- 34) この際、損得計算や打算は抜きにしたほうがいいでしょう。
- 35) 家族や友達につき合ってもらったほうがいいでしょう。
- △36) 自分から行動を起こさないほうがよさそうです。
- 37) 友達の域を出ないつき合いをするほうが賢明です。
- 38) 自分のやる方を押し進めていくか、それとも周りの人たちとうまくやったほうがいいか、迷うところでしょう。
- 39) おとなしく家の中にいるほうが賢明です。
- 40) 淡々としたふるまいをするほうが賢明です。
- 41) リスクが伴うことはやめたほうがいいでしょう。
- 42) 一人より友人と一緒に通うほうがなおいでしょう。
- △43) 天気の悪い日は乗らないほうが無難です。

【4】関西ウォーカー Chou Chou, 1998 No. 3.

- △44) 危ない誘いには乗らない方がよいでしょう。

【5】LEE, 集英社, 1998 No. 156.

- 45) 買い物は優先順位の低いものは見送ったほうが無難。
- 46) ショッピングはひとりで出かけたほうが無難。

【6】mcSister (エム・シー・シスター), 1998 No. 344.

- 47) 基本的には気持ちを引き締めてかかったほうがいいよ。
- 48) 逆に相手からのコンタクトを待っていたほうが得策なんだ。
- △49) 恋の相手を探している人は、今月の出会いにはあまり期待しないほ

うがいいかも。

- 50) 趣味などの共通の要素を探して、それを足がかりに接近していった
ほうがスムーズだよ。

【7】MM マルチミュージック，大阪有線放送社，1998 No. 53.

- 51) 面倒がらず，マメなあなたでいたほうが得ですよ。
●52) 仕事，レジャー，細かいことを気にするより，勢いやノリで進めた
ほうが好結果です。
●53) 仕事，対人……もうひと押ししたいところをあえて抑えたほうが，
好結果が出ます。

【8】MM マルチミュージック，大阪有線放送社，1998 No. 61.

- 54) すぐ必要なもの以外は，21日以降まで待った方が納得の結果に。
●55) 話し合いの場では，あえて沈黙を保った方が有利な展開に。
●56) 貯金した方が賢明では？

【9】More，集英社，1998 No. 252.

- 57) あなたも決意を固めるほうがよさそうです。
●58) できる限りの協力にとどめたほうが賢明でしょう。

【10】ヴァンテース，婦人画報社，1998 No. 106.

- 59) 無理につきあうよりは，頭を切り替えて新しい出会いを探したほう
が賢明です。
△60) 他人のことには余計な口を出さないほうが安全です。

【11】ViVi，講談社，1998 No. 178.

- 61) 彼と距離を置いたほうが賢明です。
□62) 当面の楽しみは後回しにして節約する方がベター。

<付録>

- 63) 恋人や好きな人と一対一で会わず、グループ交際をしたほうがよさそう。

【12】ViVi, 講談社, 1998 No. 181.

- 64) 正面切って戦うと、もっとひどいことを言われるので無視するほうがよさそう。
- 65) 友達のままでいるほうがいいでしょう。
- △66) 一線は越えないほうが賢明。
- 67) 損をする可能性があることはやめたほうがよさそうです。

【13】YOUNG キュン! 6月号増刊号(女の開運98夏), 情報通信社, 1998.

- 68) 自己診断での購入は避けたほうが賢明です。
- 69) なお、大型ローンでの買い物は避けたほうが無難。
- 70) 考えるよりも行動したほうが、幸せをつかめます。
- 71) 男性の前では、素直な女になったほうが得です。
- 72) 二人の関係を考え直したほうがいいでしょう。
- △73) ナンパにはのらないほうが無難。
- 74) 次の恋を探すようにしたほうがいい場合もあります。
- 75) 表向きは彼を立てたほうがいいようです。
- 76) 理想よりも、訪れた幸せを大切にしたほうがいいでしょう。
- 77) お金に対しておおらかでいたほうが金運に恵まれるでしょう。
- 78) 日頃から体をいたわるように心がけたほうがいいでしょう。
- 79) どんなときもケナゲに彼を支えていく姿勢を見せるほうがいいでしょう。
- 80) この際、その考えは捨て、楽しむようにしたほうが自分らしさを保てます。
- 81) 友だちに評価してもらうようにしたほうがいいでしょう。
- 82) 家で趣味に勤しんだほうがハッピーでしょう。

<付録>

△83) あまりストレスをためないほうがいいでしょう。

●84) 鎮痛剤を持ち歩いたほうが賢明です。

著者紹介

じょ み きょう
曹 美 庚

1967年 韓国大邱市生まれ
1990年 韓国慶北大学社会学部新聞放送学科卒業（文学学士）
1995年 神戸大学大学院文学研究科修士課程修了
 （国語学専攻，文学修士）
1998年 神戸大学大学院文化学研究科博士後期課程単位取得
 （文化構造専攻）
現 在 広島修道大学人間環境学部助教授
著 書 『Jo 先生の楽しいハングル』（三修社，2003年）

メンタル・スペース理論と過去・完了形式 ——日本語と韓国語の対照——

広島修道大学研究叢書 第129号

2003年 6 月30日 印刷

2003年 6 月30日 発行

著 者 曹 美 庚

発行者 上 谷 均

発行所 広島修道大学総合研究所

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東一丁目1番1号

TEL (082) 830-1114

FAX (082) 848-6655

印刷所 レタープレス株式会社

〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5

TEL (082) 844-7500

FAX (082) 844-7800

ISBN4-902264-03-X

広島修道大学研究叢書

- | | | | |
|--------|--------------|--|-----------|
| 第 1 号 | 森川 譚 雄 著 | アメリカ労使関係研究 | 〈1979. 6〉 |
| 第 2 号 | 宮内 文 七 著 | シェイクスピア構造詩学考 | 〈1979. 6〉 |
| 第 3 号 | 羽田 良 禾 著 | 赤潮プランクトンと夜光虫体の微細構造 | 〈1979.11〉 |
| 第 4 号 | 藤田 眞 治 著 | キーツのオード | 〈1980. 3〉 |
| 第 5 号 | 柿木 昇 治 著 | 脳の緩徐な電位変動 (CNV) に関する
生理心理学的研究 | 〈1980. 3〉 |
| 第 6 号 | 川畑 興 求 著 | 経済システムの最適制御 | 〈1980. 8〉 |
| 第 7 号 | 柳田 義 章 著 | 労働生産性の国際比較と輸出競争力
—西ドイツの輸出競争力を中心として— | 〈1980.11〉 |
| 第 8 号 | 玉 永 一 郎 著 | 「経営多角化」研究の発展 (序論) | 〈1980.11〉 |
| 第 9 号 | 野口 隆 著 | 続 社会学の視座
—社会変動論から歴史へ— | 〈1981. 3〉 |
| 第 10 号 | 営業報告書研究グループ編 | ディスクロージャーと営業報告書 | 〈1981. 3〉 |
| 第 11 号 | 野口 隆 著 | モース社会学の研究 (上) | 〈1982. 3〉 |
| 第 12 号 | 木田 重 雄 著 | 年功的労使関係論研究の系譜 | 〈1982. 3〉 |
| 第 13 号 | 杉田 憲 治 著 | 漁業法秩序の研究 | 〈1982. 3〉 |
| 第 14 号 | 会計制度研究会編 | 監査制度の研究
—各国監査制度の比較研究— | 〈1982. 3〉 |
| 第 15 号 | 稲田 実 次 著 | フィリピン家内工業の研究 | 〈1982. 3〉 |
| 第 16 号 | 野口 隆 著 | モース社会学の研究 (下) | 〈1982. 9〉 |
| 第 17 号 | 木田 重 雄 著 | 続・年功的労使関係論研究の系譜 | 〈1982. 9〉 |
| 第 18 号 | 吉川 元 著 | ソ連反体制運動の展開
—ソ連人権問題の国際化— | 〈1983. 1〉 |
| 第 19 号 | 田淵 進 著 | 投資決定論による利益課税の考察 | 〈1983. 2〉 |
| 第 20 号 | 川内 亮 著 | アメリカ大学教員組合の研究 | 〈1983. 3〉 |
| 第 21 号 | 稲田 勝 幸 著 | 民主主義的統制形態と科学的管理論 | 〈1983. 3〉 |
| 第 22 号 | 海生 直 人 著 | 単一ユニットシステムの予防保全問題に
関する解析的研究 | 〈1983. 3〉 |
| 第 23 号 | 野口 隆 著 | 芸術社会学の理論 | 〈1983. 8〉 |
| 第 24 号 | 春日 耕 夫 著 | 大学生の「在学態度」に関する研究
—「高等教育の社会学」への一試行— | 〈1983. 8〉 |
| 第 25 号 | 森川 泉 著 | イギリス学校教育制度の展開と構造
1870-1902 | 〈1983.11〉 |
| 第 26 号 | 和田 辨 著 | 言語の場の理論による意味論と構文対照
研究 | 〈1984. 2〉 |

- 第 27 号 杉 田 憲 治 著 中華人民共和国憲法の研究 〈1984. 6〉
- 第 28 号 伊 藤 進 著 セグメント別管理会計の研究 〈1985. 3〉
- 第 29 号 清 野 惇 著 競輪の法的構造
—公営競技の法的側面— 〈1985. 3〉
- 第 30 号 藤 田 楯 彦 著 金融変革下の労働者共済と生命保険 〈1985. 3〉
- 第 31 号 杉之原正純・松田 俊・平 伸二共著
精神テンポの基礎的実験研究 〈1985. 3〉
- 第 32 号 柿木昇治・古満伊里・栗栖久恵共著
バイオフィードバックに関する基礎研究 〈1985. 3〉
- 第 33 号 香川不苦三・高木敬雄・尾野展昭共著
商業集積と消費者行動の研究
—広島市の事例研究を中心に— 〈1985. 3〉
- 第 34 号 森 川 譚 雄 著 時間研究の特質と労使関係 〈1986. 2〉
- 第 35 号 亘 明 志 著 記号論と社会学
—記号論の彼方／外部としての権力— 〈1986. 2〉
- 第 36 号 清 野 惇 著 学則を中心とした私立大学の管理・運営
に関する研究 〈1987. 2〉
- 第 37 号 上野實義・井上久雄編
わが国における中等教育の史的比較研究 〈1987. 2〉
- 第 38 号 岡 昌 宏 著 人間の問題
—人間・自由・死の存在論的考察— 〈1987. 2〉
- 第 39 号 上 領 英 之 著 簿価基準財務構造の基礎
—会計的アプローチの深化と拡充— 〈1987. 2〉
- 第 40 号 森 島 吉 美 編 クリエタイムネストラの死と再生
—欲望の言葉と死の言葉— 〈1987. 2〉
- 第 41 号 津 村 憲 文 著 19世紀の英国小説と出版 〈1987. 8〉
- 第 42 号 大 賀 祥 充 著 「商法・有限会社法改正試案」管見 〈1987. 8〉
- 第 43 号 井 上 久 雄 著 歴代の文部大臣 〈1987.12〉
- 第 44 号 杉 田 憲 治 著 中華人民共和国の基本的法制に関する
研究 〈1988. 1〉
- 第 45 号 高 木 敬 雄 著 主観的輪郭線の知覚 〈1988. 1〉
- 第 46 号 亘 明志・田邊信太郎共著
映像社会学序説 〈1988. 2〉
- 第 47 号 上 領 英 之 著 簿価基準財務構造の展開
—評価基準に拡充— 〈1988. 9〉
- 第 48 号 津 高 正 文 著 イギリスの中等教育改革
—コンプリヘンシブ・スクールの成立と
展開— 〈1989. 1〉
- 第 49 号 上 野 裕 久 著 明治初年熊本県の町村会 〈1989. 1〉
- 第 50 号 大 賀 祥 充 著 会社役員退職慰労金の法理 〈1989. 8〉

第 51 号	松 本 真 著	広島県の庚申信仰と庚申塔	〈1989. 10〉
第 52 号	海 生 直 人 著	確率的保全問題に関する研究	〈1989. 11〉
第 53 号	横 田 三 郎 著	ドブローリュエボフの生涯とその思想	〈1990. 1〉
第 54 号	清 野 惇 著	私立大学の管理・運営についての法学的研究 (上)	〈1990. 3〉
第 55 号	川 本 明 人 著	多国籍銀行と国際金融リスク	〈1990. 3〉
第 56 号	上 野 裕 久 著	明治初年九州地方の区町村会	〈1990. 3〉
第 57 号	大 崎 富 士 夫 著	坊場の買撲経営と税場の買撲	〈1990. 8〉
第 58 号	大 賀 祥 充 著	「商法等改正法律案要綱」論	〈1990. 8〉
第 59 号	宇 野 豪 著	近代日本における国民高等学校運動の生成過程 (上)	〈1991. 2〉
第 60 号	上 領 英 之 著	資本市場の企業財務論 (上) —投資家の立場と企業の立場との 関係整序—	〈1991. 9〉
第 61 号	杉 田 憲 治 著	中国憲法と若干の法制に関する研究 —党政分離, 村民委員会, 行政訴訟法 について—	〈1992. 2〉
第 62 号	大 賀 祥 充 著	平成二年 (一九九〇年) 改正会社法小論 (上)	〈1992. 2〉
第 63 号	上 野 裕 久 著	中・四国地方の区町村会と自由民権運動	〈1992. 2〉
第 64 号	宇 野 豪 著	近代日本における国民高等学校運動の生成過程 (下)	〈1992. 2〉
第 65 号	森 島 吉 美 編 著	「異」の排除と知の体系	〈1992. 2〉
第 66 号	広島修道大学地域経済研究会編	地域経済の現状と課題 —広島地区を中心として—	〈1992. 2〉
第 67 号	春日耕夫・春日キスヨ共著	孤独の労働 —高齢者在宅介護の現在—	〈1992. 2〉
第 68 号	渡 辺 俊 三 著	中小企業政策の形成過程の研究	〈1992. 7〉
第 69 号	大 賀 祥 充 著	平成二年 (一九九〇年) 改正会社法小論 (下)	〈1992. 8〉
第 70 号	上 領 英 之 著	資本市場の企業財務論 (下) —投資家の立場と企業の立場との関係整序—	〈1992. 9〉
第 71 号	市 川 太 一 著	広島への代議士	〈1992. 11〉
第 72 号	川本明人・澄川真幸・後藤一郎・稲富信博共著	第三次産業の新展開	〈1993. 2〉
第 73 号	糸 藤 洋 著	ロバート・ペン・ウォーレンの基本思想 —反・abstraction を中心に—	〈1993. 2〉

- 第 74 号 市川太一・上野裕久・加藤 高・川内 嘉・北西 允共著
日中学生の政治・法意識の比較 〈1993. 2〉
- 第 75 号 中根光敏著 「寄せ場」をめぐる差別の構造 〈1993. 8〉
- 第 76 号 杉之原正純・平 伸二・武藤玲路・今若 修共著
精神テンポの基礎的実験研究(2)
—精神テンポの機制に関する
実験的研究— 〈1993. 8〉
- 第 77 号 北西 允・上野裕久・加藤 高共著
学生政治・法意識の変化 〈1993. 8〉
- 第 78 号 清野 惇 著 私立大学の管理・運営についての法学的
研究(下) 〈1993. 8〉
- 第 79 号 森川 潤 著 ドイツ・ヴィッセンシャフト移植の端緒
について
—官費留学生のドイツ派遣まで— 〈1993. 8〉
- 第 80 号 廣光清次郎著 JUNETと広域コンピュータネットワーク 〈1993. 8〉
- 第 81 号 大庭宣尊編著 <今・ここ>から反差別のネットワーク 〈1993.10〉
- 第 82 号 上領英之・鷲頭正憲共著
理論株価計測のモデルと分析：日米比較 〈1994. 4〉
- 第 83 号 大賀祥充著 平成五年(一九九三年)改正会社法小論 〈1994. 4〉
- 第 84 号 柳瀬陽介著 模倣の原理と外国語習得 〈1994. 4〉
- 第 85 号 森川 潤 著 明治初年のドイツ留学生 〈1994. 4〉
- 第 86 号 加藤 高 編 日中両国法制度の比較法的・法社会学的
研究 〈1994. 4〉
- 第 87 号 高木敬雄著 ポンゾー錯視の実験的研究 〈1994. 4〉
- 第 88 号 獅々見 照 著 キンギョにおける弁別刺激を用いた嫌悪
条件づけの研究
—シャトル反応の道具的統制について— 〈1994. 4〉
- 第 89 号 有定愛展著 情報と寡占の基礎研究
—ゲーム理論の基礎と応用— 〈1995. 4〉
- 第 90 号 岡本 徹 著 教育計画の理論と実際
—技術主義的教育計画— 〈1995. 4〉
- 第 91 号 中根光敏編著 反差別のリアリティ構成
—「同和」教育運動の新たな地平— 〈1995. 4〉
- 第 92 号 田辺 拓・富岡恒雄・有定愛展共著
経済系の情報理論・情報処理の諸検討 〈1995. 4〉
- 第 93 号 森川 潤 著 木戸孝允をめぐるドイツ・コネクション
の形成 〈1995. 4〉
- 第 94 号 財満義輝著 自閉症児に対する運動を媒介とした治療
教育の試み 〈1995. 4〉

- 第 95 号 山田 浩・谷川 榮彦編著
国際環境の変動と日本 〈1996. 5〉
- 第 96 号 MITSUO OKAMOTO: PEACE STUDIES IN THE NUCLEAR AGE 〈1996. 5〉
- 第 97 号 日 隈 健 壬 著 流れてやまず
—太田川流域・社会経済的調査研究— 〈1996. 5〉
- 第 98 号 北 原 宗 律 著 データ保護法の研究 〈1997. 5〉
- 第 99 号 山 本 敬 三 著 法律回避の研究 〈1997. 4〉
- 第 100 号 Yuichiro Yamada, Malcolm J. Benson, Kazuro Harimochi,
Susumu Murakami
Culture, Language, and Advertising
—Studies of Japanese and
English Advertisements— 〈1997. 5〉
- 第 101 号 Robert B. Austenfeld, Jr.
The State of Benchmarking in Japan 〈1997. 5〉
- 第 102 号 大 賀 祥 充 著 平成九年(一九九七年)改正会社法小論 〈1998. 5〉
- 第 103 号 Hideyuki KAMIRYO
Economic Accounting: A Macro and
Micro Common Approach Using
National and Corporate Accounts 〈1998. 5〉
- 第 104 号 中 根 光 敏 編 著 差別問題の構成をめぐる社会的ダイナミ
ズム 〈1998. 5〉
- 第 105 号 中川輝男・亀崎澄夫・尾野展昭・木田重雄共著
広島地域経済の変貌 〈1998. 5〉
- 第 106 号 Daijiro FUJIMURA
A Lost Accounting System and Its
Significance for Classical Capitalism:
The Double Account System at Schneider
and Company in the Mid-Nineteenth
Century 〈1998. 5〉
- 第 107 号 高 橋 恭 一 著 魚類網膜水平細胞の機能解析 〈1999. 5〉
- 第 108 号 佐々木 宏・岸本幸次郎・宇野 豪・荒井貞光共著
安佐地区バレーボール運動の成立と展開
——広島市安佐地区におけるバレーボ
ール運動の発展とその教育的影響に関する
総合的研究—— 〈1999. 5〉
- 第 109 号 山田雄一郎編著 新英語教育講義
—広島修道大学人文学部「英語教師のた
めの夏期講座」展覧— 〈1999. 5〉
- 第 110 号 高木敬雄・小村緩岳共著
錯視的輪郭の明暗知覚 〈1999. 5〉

- 第 111 号 Chris J. M. Czerkowski
Real Exchange Rates After Asian and Latin American Financial Crises 〈1999. 5〉
- 第 112 号 大賀 祥 充 著 平成一一年(1999年)改正会社法小論 〈2000. 5〉
- 第 113 号 森 岡 一 憲 著 政府支出の現状と課題 〈2000. 5〉
- 第 114 号 Hideyuki KAMIRYO
Growth Accounting in Discrete Time: A New Approach Using Recursive Programming 〈2000. 5〉
- 第 115 号 森 川 潤 著 井上毅のドイツ認識 〈2001. 5〉
- 第 116 号 落 合 功 著 戦後、中手造船業の展開過程 〈2002. 5〉
- 第 117 号 山田雄一郎 著 外来語と小説 〈2002. 5〉
- 第 118 号 太田耕史郎 著 反トラスト政策の経済分析 〈2002. 5〉
- 第 119 号 兒玉正憲・坂口通則共著
区分的費用関数をもつ確率的在庫モデルの研究 〈2002. 5〉
- 第 120 号 廣光清次郎・東 皓傳・鹿子木幹雄・日隈健壬共著
ミヤジマ・プロジェクト 〈2002. 5〉
- 第 121 号 Michinori Sakaguchi
Regular sequences of a commutative ring 〈2002. 5〉
- 第 122 号 中根光敏 編 著 社会的排除のソシオロジ 〈2002. 5〉
- 第 123 号 大庭宣尊 編 著 成人の生涯学習ニーズと高等教育機関の交差可能性 〈2002. 5〉
- 第 124 号 高木敬雄・吉本美穂共著
視対象知覚における結合問題 〈2002. 5〉
- 第 125 号 大賀 祥 充 著 わが国における会社法改正の最近の状況と今後の課題 〈2002. 8〉
- 第 126 号 木 谷 直 俊 著 都市交通
—都市における自動車交通と公共交通の「バランス」は可能か— 〈2003. 6〉
- 第 127 号 高木敬雄・堀内良治・前田総持共著
色彩の認知心理
—その事実と概念の研究— 〈2003. 6〉
- 第 128 号 日隈健壬・宮本晋一・広田ともよ共著
加齢に生きる人たち
—自立・安定そして生きがい日韓比較調査研究— 〈2003. 6〉
- 第 129 号 曹 美 庚 著 メンタル・スペース理論と過去・完了形式
—日本語と韓国語の対照— 〈2003. 6〉
- 第 130 号 森 琳・高木敬雄・佐々木宏・井上 勝・湯地宏樹共著
子どもの遊びとスポーツとスポーツビジョン 〈2003. 6〉